

## 郡上農林事務所の普及活動状況 令和5年3月31日現在

### 今月の重点活動

#### ■新規就農 令和4年度「清流の国ぎふ農業担い手証書」を交付

3月15・16日、農業普及課は、所定の研修を受けたのち令和4年度に独立自営就農もしくは雇用就農した新規就農者に対して、「清流の国ぎふ農業担い手証」の交付を行った。かつては中濃地域就農支援協議会郡上支部が中心となって認定式を開催していたが、コロナ感染症の影響で対象者の元を個別に訪問する形となった。

八幡町の畜産農家に雇用就農した女性は、「覚えることだらけですが、毎日充実しています。」と1年間を振り返って感想を述べていた。

農業普及課では、引き続き新規就農者の育成・定着の支援を進めていく。



【3名の新たな担い手】

### 郡上の農業・農村を支える人材育成

#### ■新規就農者支援 夏秋トマト就農開始に向けた準備

郡上トマトの学校で研修を受け、今年4月から就農する研修生のハウス建設作業が3月下旬に概ね終了し、栽培開始に向けた準備が整った。

研修生は、就農地である白鳥町阿多岐地区において研修1年目から準備を始め、研修2年目に測量、整地およびハウス建設を行うなど研修カリキュラムに従いJA・市・農林事務所ら関係者の支援で作業を進めてきた。

農業普及課では新規就農者の円滑な営農開始、栽培期間中の管理作業の徹底に向けて今後も支援を継続する。



【完成した新規就農者のハウス】

#### ■女性農業経営アドバイザー 中濃ブロック退任者講話会を開催

3月7日、中濃総合庁舎で令和4年度GLAMA退任者講話会が開催された。退任者は中濃ブロック会員に対して自らのアドバイザー活動を振り返って講話した。

今年度退任する2名（関市、東白川村の会員）はアドバイザー歴が25年以上と長く、ライフステージの変化や様々なイベントの思い出などを話され、GLAMA結成初期から活動していた活動内容等を会員は興味深く聞き、思い出話が止まらなかった。

農業普及課では、女性農業経営アドバイザーの活動を支援するとともに、地域の女性農業者が活躍できるように関係機関と連携して取り組んでいく。



【退任者講話会の様子】

## 安心で身近な「郡上の食」づくり

### ■夏だいこん ひるがの高原だいこん生産出荷組合 ぎふ清流 GAP 研修会を開催

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、令和3年度からぎふ清流GAPの取り組みを開始し、今年度、組合員の6名が団体評価を受け、アドバンスの評価を得た。昨年末に開催された総会では、この取り組みを拡大する活動計画が承認され、今回の研修会となった。

研修会では、講師に岐阜県農政部の革新支援専門員を招き、GAPの意味、目的など基本的な説明を受けるとともに、農業普及課からは昨年の農場評価などでの改善が必要な事例について、写真を交えて対策を説明した。

農業普及課では、ぎふ清流GAPの取り組み拡大に向けて、生産組合の組織活動と個々の組合員の改善を支援していく。



【研修を受ける生産者】

## 郡上農畜水産物のブランド展開

### ■水稲 郡上産米ブランド化研究会の総会を開催

3月22日、郡上総合庁舎にて郡上産米ブランド化研究会の令和4年度総会が開催された。

総会では、事業計画等の協議や役員改選が行われ、総会終了後には、農業普及課から民間の食味分析機関の紹介、インボイス制度、中山間研究所のニュース等を情報提供を行った。

意見交換では「肥料資材が高騰しているため販売価格を上げる」、「コシヒカリに代わる耐高温性の品種が必要である」、「収量向上も大切である」等の意見が出され、今後研究会で検討していくこととなった。

この研究会は、平成28年の発足時より郡上産米のブランド化に向けて、会員相互の技術向上のための視察や研修会を実施しており、農業普及課では、今後も活動を支援していく。



【総会後来賓祝辞の様子】